

## 『大きな笑顔』

株式会社板垣 大胡店

立澤 甲斐

「いらっしゃいませ！」と私は元気にお出迎えをしました。それは八十代後半の女性で素敵なお召し物の方でした。「近くを見るのが大変になってきたのよ」そう言った女性は、近用のメガネを探していました。

しかし、その方は遠くもあまり見えていない様子でした。私は遠用のメガネもおすすめしましたが、女性は「運転免許を返納したから必要ないのよ」と残念そうに答えます。そこから女性は数十年前の思い出を話し始めました。

女性は昔コーラスをたしなんでいて、コーラスの先生として生徒を受け持ち、ピアノを弾きながら指導をされていたとのこと。生徒と言っても、その女性と同世代の方たちに趣味の延長で教えていたそうです。時にはホールで発表会をしたり、反対に歌うわけでもなく喫茶店でおしゃべりをしたりと和気あいあいとした集まりだったそうです。ですが、今では歳を重ねて集まらなくなり自然消滅。懐かしさもあり寂しい話に、この女性は免許を返納して更に寂しい気持ちで話してくれたのだと感じました。

私の祖母は昔コーラスをしていたと聞いたことがありました。たまたま祖母と話す機会があり、その女性のエピソードを話しました。すると祖母はなにか感じ取ったのか、コーラスの頃の写真を出してきました。なんとあの女性が笑顔で写っていました。祖母はコーラスの集まりがなくても年賀状でやり取りを続けていたそうですが、女性のご主人が亡くなってからお互い送っていなかったそうでした。祖母は筆と紙を持ち出し、女性に渡してほしいと私に手紙を託しました。

メガネが仕上がり、女性は免許がないため、ご自宅へお届けに伺いました。祖母から預かった手紙を渡すと、私の祖母が実は生徒だったと知りとても驚いていました。そして手紙を手に取り、懐かしそうな表情で内容を読んでいました。私はなんだか温かい気持ちになり、新調した近用メガネが役に立ったと感じました。

今ではまた私の祖母と年賀状や手紙のやり取りを始めたらしく、そして私とも暑中見舞いのハガキでやり取りをしています。文章の最後には、祖母と一緒に写っていたあの写真のような、おおきな笑顔のにつきりマークが描かれていました。